

Q5 教師の話を聞かない場合

<このような状態は自閉症の特性からきています。>

いつも元気いっぱいの明るいAちゃんですが、教師の学級全体への指示だけでは行動できずに、ぼんやりしていたり、席を離れたりすることがあります。朝の会のように流れがいつも決まっているときは、自分一人で行動することがわかり実行に移せますが、授業場面や全体に指示を出された場合には、その指示を自分のこととして受け止めて対応することができません。教師から質問されたことに答えるのも苦手な場合が多いようです。

自閉症の子どもには、言語理解に関する困難さがあり、話の中で意図されていることを読み取ることが苦手です。また、話している人に対して十分に注意を向けることが難しい場合もあります。そのため、集団で活動する場合、教師の全体への指示だけでは行動に移せないこともあります。

<このような場合の支援 1>

小学校2年生の知的障害を伴う自閉症の男児。学校生活の様々な場面で、他の子どもと同じように行動することが難しいようです。学級では、個別の支援者がいないと学習の成立が難しいため、現在は母親が学校へ来校し個別に支援して学習を行っています。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 教師の方を見るよう声かけをし、特に低学年の場合は、1対1の関係でしっかり指示をする。
- ② 指示内容はできるだけ簡単に、時には単語（キーワード）のレベルで指示をする。
- ③ 学級の中では、座席を一番前のすぐ声をかけられるところにして、常に名前を呼んだり肩に手を置くなど、子どもが気がつくように働きかける。
- ④ 場合によっては、個別の支援者（介助者等）の存在も必要である。
- ⑤ 個別の支援者との役割分担を明確にする。
- ⑥ 母親が支援者の場合は、母親の支援内容や方法をカバーするよう心がける。

<このような場合の支援 2>

小学校6年生の高機能自閉症の男児。集中力がなく教師の話を終わりまで聞くことができません。途中まで聞いた話の中で自ら判断をして、教師の指示とは違うことをする場合があります。興味のない事や自分ができないと思った事は参加しないことがあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑦ グループ学習を利用して、小さな集団で話を聞く練習をする。
- ⑧ 長い話を聞くことが苦手なので、話すときは要点をはっきり短く話す。
- ⑨ 本人に指示内容を確認させる。
- ⑩ 指示内容を紙に書いて掲示して、視覚的にも理解できるようにする。
- ⑪ 自分ができないと思った場合、教師の支援を求めることを約束しておく。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子